

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	小井戸 あや乃
2. 審査委員	主査：（岐阜大学・教授） 大藪 千穂 副主査：（滋賀大学・教授） 與倉 弘子 委員：（岐阜大学・准教授） 田中 伸 委員：（兵庫教育大学・教授） 永田 智子 委員：（岐阜大学・准教授） 上田 真也
3. 論文題目 金銭感覚を育成する授業開発に関する研究 ー小学生を対象とした金融経済教育ー	
4. 審査結果の要旨 教科教育実践学専攻生活・健康系教育連合講座 小井戸あや乃 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和6年2月12日（月・祝） 13時00分～14時00分 場 所：Zoomによるオンライン開催 1. 学位論文の構成と概要 序章 研究の背景と目的 第1章 先行研究 第2章 新たな「おこづかいちょう」の開発 第3章 開発した「おこづかいちょう」を用いた金融経済教育 第4章 他教科と金融経済教育をつなぐ授業案の開発 終章 結論及び今後の課題 概要は以下の通りである。 研究の目的は、小学生を対象とした金融経済教育を通して家計管理能力と非認知能力を育てることである。子どもの頃から金銭感覚を養い、変化に対応できる能力を身に付けるための金融経済教育の授業開発に取り組んだ。論文は序章と終章を含め、6章からなっている。 第1章では、消費者教育及び金融経済教育に関する先行研究、学習指導要領や教科書の移り変わりなどについて概観し、研究課題及び研究方法について検討した。 第2章では、新たな「おこづかいちょう」を開発した。基本的な記入欄と月の合計、親からの評価とコメントの記入欄に加えて、週計、知識を付与できるクイズ、支出の可視化、購入した物の振り返りの4つの機能を新たに組み込み、1か月分の「おこづかいちょう」を作成した。また1年間分の「おこづかいちょう」のクイズを作成し、1年間の利用にも対応できるようにした。 第3章では、開発した「おこづかいちょう」を用いた短期間及び長期間の記帳実践、学校行事を関連させた授業実践を行った。この結果、1ヵ月という短期間より、約半年・約1年間という長期で実施することにより、現状把握する能力や「非認知能力」が高まった。小遣いを渡す保護者が増加したことから、保護者も小遣いを用いた金融経済教育の効果を実感したと言える。また、お金への関心、生活設計と管理能力、自制心の高まりがあった短期間とほぼ同じ効果が、長期間でも持続することが分かった。さらに、修学旅行版「おこづかいちょう」を用いた授業実践では、事前に何を購入するか考えて調べること、自分1人で買う物を決定すること、事後の振り返りを丁寧にするこ	

で、お金の使い方だけでなく、家族のことまで考えることができた。修学旅行でのお金の使い方について、保護者から喜びや感謝、感想が示されることで、児童は自分なりの発見や反省、振り返りの具体性を考えることができた。

第4章では、他教科と連携させた金融経済教育の授業案を開発し、授業実践の効果を分析した。ガチャ擬似体験ゲームに「我慢」という「マシュマロ・テスト」の内容を用いて「ナッジ効果あり」の授業を行うことで、「課金することはよくないことだ」と価値を押しつけるのではなく、課金したいという気持ちにストップをかける自制心が大切であることを自発的に気づかせることができた。我慢や自制心は今後の人生にも関わる重要な力だということを理解することに効果が見られた。また「ナッジ効果あり」の授業と算数科の学習を連携させた授業実践では、1等に近づくほど出る確率が低くなるということを理解するだけでなく、計算通りの回数を回しても出ないこともあるということを感じさせることができた。さらに、小学3年生の社会科、算数科、社会見学と金融経済教育を連携させた授業実践では、買い物の観点が広がったり、計画的な使い方を考えたり、適切に購入したりすることができた。また予算を決めることで、自分の目的に合わせて買い物の観点を並び、購入する物を選ぶことができ、非認知能力の自制心や環境に配慮した生活につながる大切な意識も生まれた。

終章では、本研究で得られた知見を整理し、以下の結論が得られた。

短期及び長期間の「おこづかいちょう」記帳実践を行い、お金への関心、生活設計と管理能力、自制心、継続記入による現状把握する能力や「非認知能力」が高まることが明らかとなった。修学旅行と関連させた授業実践では、お金の使い方や家族のことを考えることができ、さらに保護者から喜びや感謝、感想が示されることで、児童は自分なりの発見や反省、振り返りの具体性を考えることができていた。他教科と関連させた授業実践では、複数の教科の要素が入ることにより、我慢、自制心、計算による実感、買い物の観点が広がり、計画的な使い方、予算に合わせた適切な購入、環境に配慮した選択など、さまざまなことを学ぶことができた。

2. 審査経過

審査に先立ち、Zoomによる公聴会を実施した。論文概要についての発表の後、質疑応答がおこなわれた。その後の審査委員会では以下の点について質疑応答、審査が行われた。

① 研究の独創性及び発展性

本研究は、小学生を対象とした金融経済教育を通して家計管理能力と非認知能力を育てることを目的としている。本研究では、独自の「おこづかいちょう」を開発し、それを用いて短期間だけでなく、11ヶ月という長期にわたる「おこづかいちょう」の継続記帳によって金融経済教育を進めることで、非認知能力が高まることを明らかにした点に独創性があると評価された。また、修学旅行や買い物体験を加えたことで、家計管理能力だけでなく、お金を使う目的、予算内で買い物をするための自制心、相手意識などについても学習できることを明らかとしたことで、そのときの自分の状況に合った選択・判断ができる力につながり、金銭感覚だけでなく、日常生活にも変化をもたらした点が高く評価された。これらの成果は、今後の家庭科を中心に、小学校での金融経済教育を推進するための一助となると発展性についても評価された。

② 学校教育実践への貢献

本研究では、短期間・長期間にわたる「おこづかいちょう」の記帳実践をしたことが高く評価された。子どもの頃から金銭感覚を養い、変化に対応できる能力を身に付けるための金融経済教育の授業開発に取り組み、独自の「おこづかいちょう」を開発し、学習と組み合わせ、数種の学校で短期・長期にわたる継続的な金融経済教育の授業実践を行い、学校教育実践への貢献が評価された。また家庭科の視点から他教科との関連を授業案として開発し、実践した点が高く評価された。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は小井戸あや乃の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。